

# 日本周辺の海面水温上昇とその影響

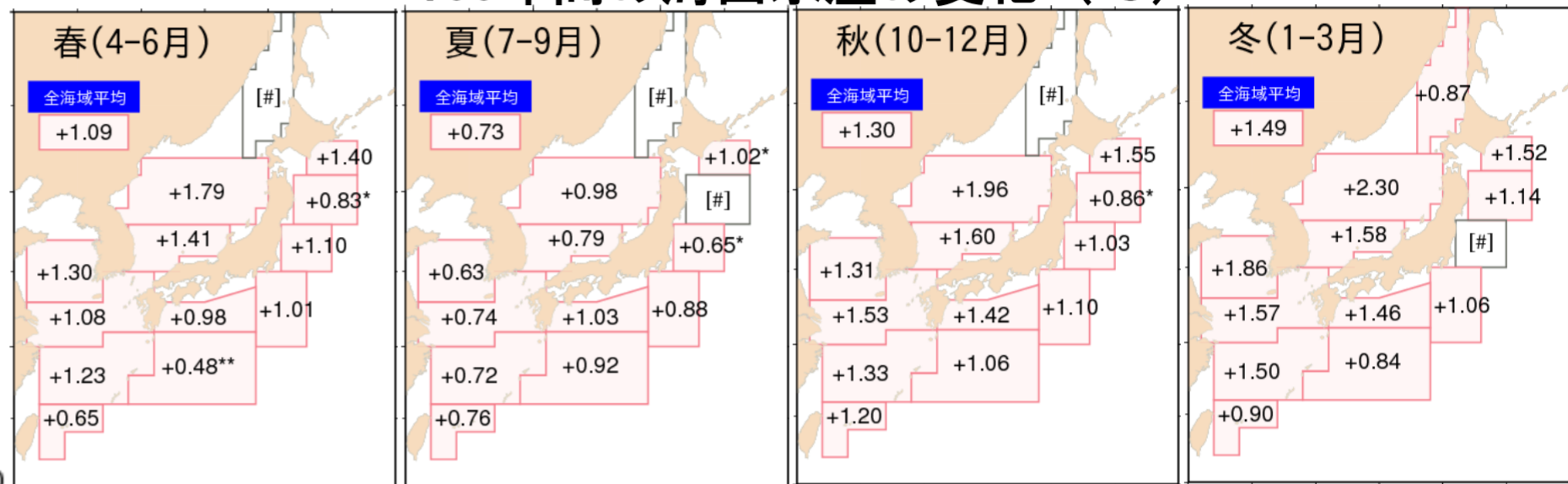
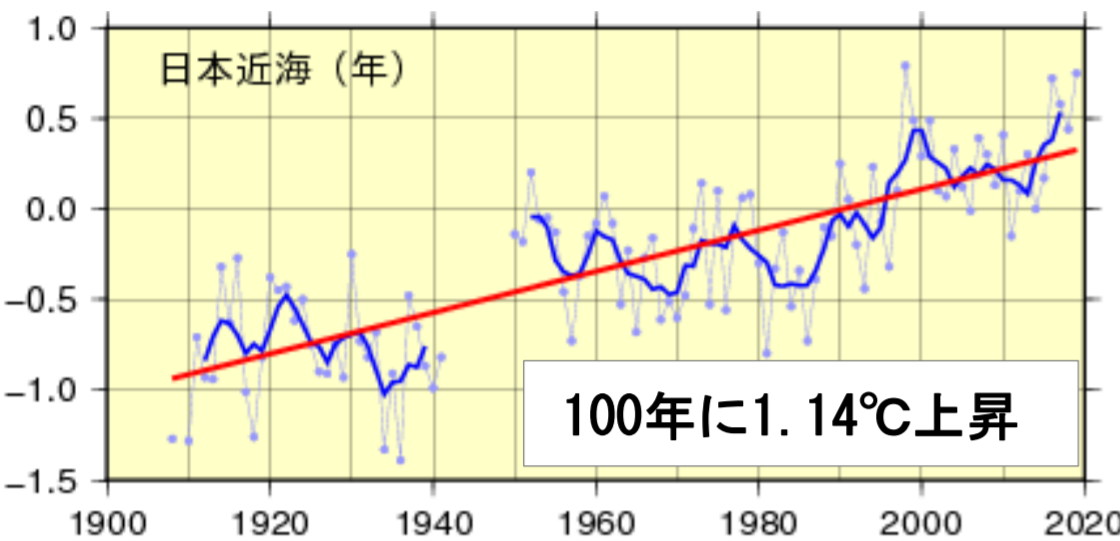
温暖化によってこの100年で海面水温は上昇しており、今後も続くと予想されます。冬には、特に日本海で水温上昇が著しく、水蒸気量の増加により急な大雪の発生が心配されます。また、夏～秋に太平洋側で今後も水温が上昇すると、日本の近くまで台風が発達しやすくなると考えられます。

## 現在までの日本周辺の海面水温上昇

気象庁(海洋の健康診断)より

### 日本近海の海面水温の推移

### 100年間の海面水温の変化(°C)

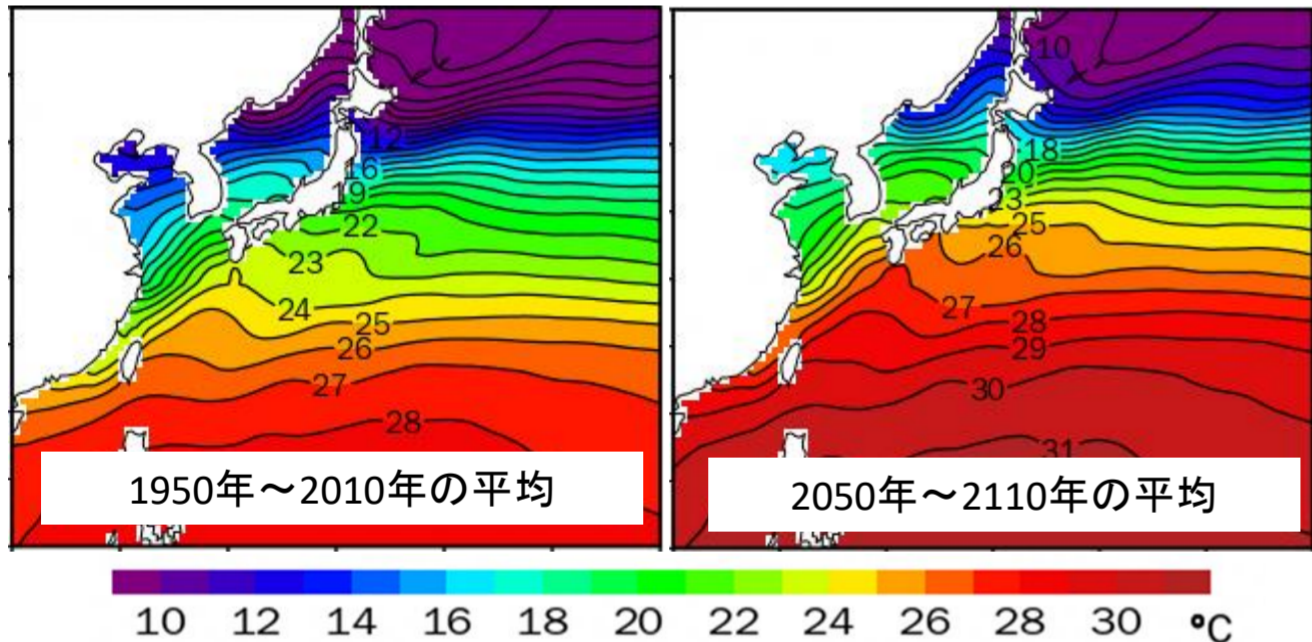


過去100年の海面水温の推移を見てみると、日本近海では年平均で1.14°C上昇しています。また、冬の水温変化が大きく、特に日本海側では2°C程度も上昇していることがわかります。

## 海面水温上昇による影響

気象庁気象研究所と当センターの研究より

### 現在と将来の平均海面水温(°C)



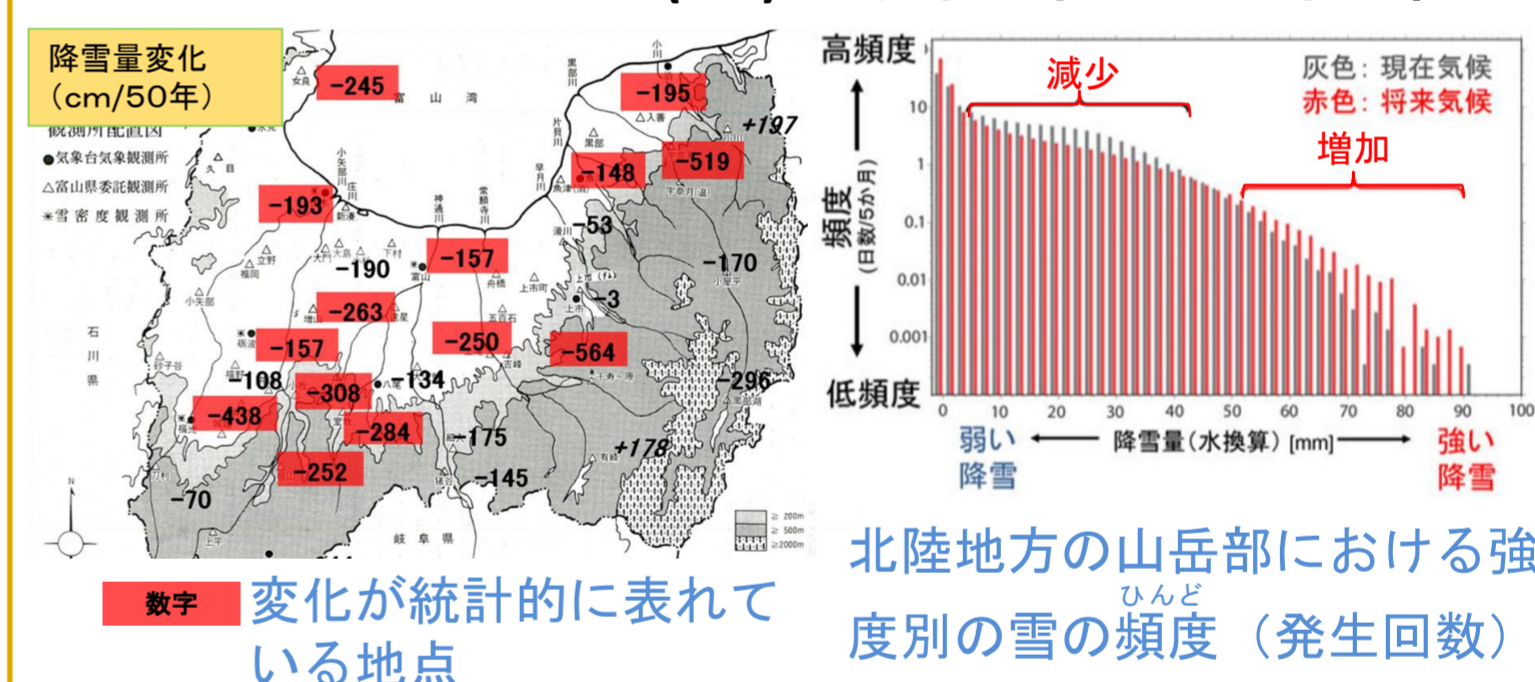
温室効果ガスが今までどおり増え続ける場合、海面水温は、地球全体の平均で現在より約4°C上昇することが予測されています。

日本付近も、日本海側で約4°C、太平洋側で約3°C上昇する可能性があります。

### 海面水温の上昇

### 過去50年の降雪量変化(cm)

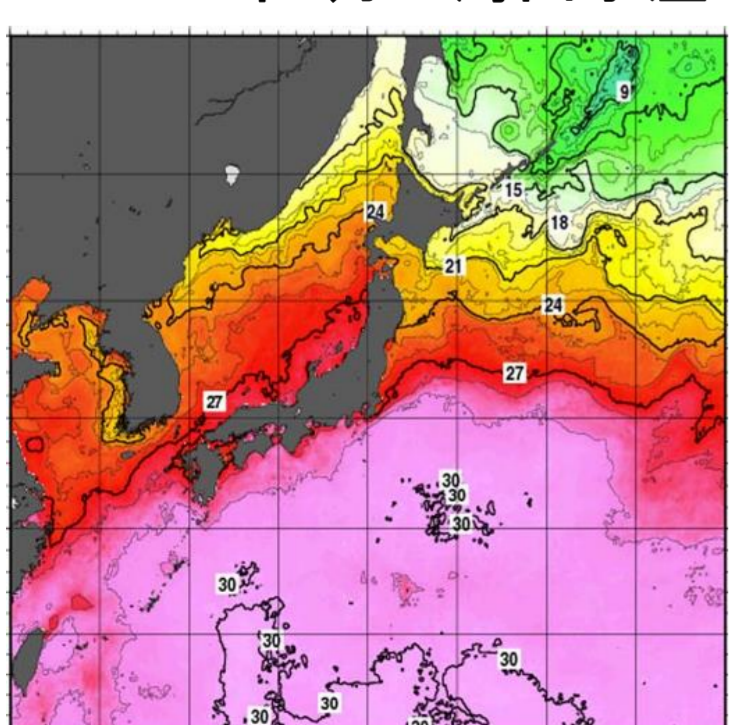
### 現在と将来の日降雪量



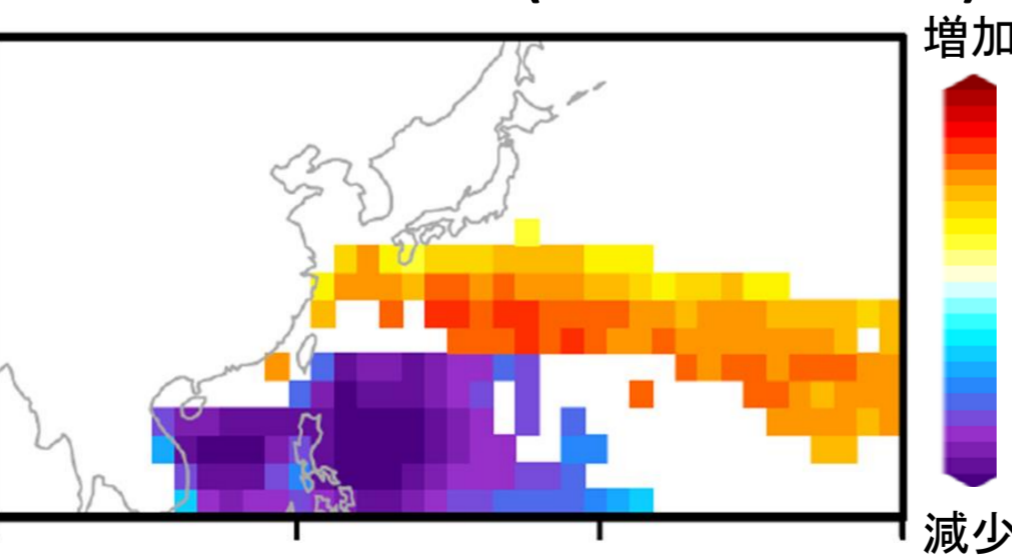
年間降雪量は過去50年間で平野部で200~400cm程度減少していますが、海面が温まり蒸発量が増えることで、山岳部では、急な大雪の頻度が将来増加する可能性があります。

### 急な大雪の増加

### 2019年9月の海面水温



### 猛烈な台風の増減(4°C上昇の場合)



猛烈な台風(平均風速56m/s以上)が日本の南海上を通過する頻度を現在と将来でくらべています。

台風は海面水温が27°C以上あると発達すると言われています。2019年9月には暖かい海域が広がったため、台風被害が大きくなりました。

温暖化に伴い、台風の数は変わらないか減ると予想されていますが、猛烈な台風が日本に接近することが多くなります。

### 猛烈な台風の接近